

Ⅲ 環境教育事業（加瀬澤）

1 環境教育事業一覧

「現在、温暖化や自然破壊など地球環境の悪化が深刻化しており、環境問題への対応が人類の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題となっている」（文部科学省、環境教育より引用）ため、環境問題や環境保全に主体的に関わることができる能力や態度を育成する“教育”の役割が、より一層重要になってきています。環境教育とは、環境問題解決のための教育であり「自然の中で（in）自然について（about）自然のために（for）」という3つの要素があると整理されており、この要素を対象者に合わせてバランスよく含んだものであるとされています。

環境教育を推進することは、人が生きていく上で必要不可欠である自然に目を向けて、自然に学び、自然と折り合いをつけながら生きていく方法を自分なりに考え、実践する人を育てることになります。さらに、自然に学ぶ実体験は、個人がより良く生きていくための手掛かりとなります。しかし、環境教育の成果は目に見えにくく、すぐに表れるものではないことから「未来のための教育」と捉え、事業を継続することが重要です。

令和2年3月以降、環境教育事業は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業数を減らし、少人数で実施することになりました。その反面、事業への参加希望者が増加しました。また、個人やグループでハイキングや散策を楽しむなど、身近な自然に目を向ける方が多くなった印象があります。

森林レンジャーあきる野は、人が集う環境教育事業が中止となった際も「森林レンジャーあきる野新聞」（毎月1回発行）や「森林レンジャーがゆく（市広報）」（年9回掲載）において、市内外の方に向けて自然についての発信を続けています。

次の表は、年度ごとの事業一覧です。

〈平成31年度・令和元年度事業一覧〉

No.	事業	件数 (件)	参加者数(人)	
			大人	小人
1	市内小学校体験学習	12	57	809
2	森の子コレンジャー活動	10	12	107
3	講演、研修、ツアー	28	320	184
4	市の森づくり事業	0	—	—
5	出展	2	—	
合計		52	1,489	

※ 荒天中止2件（No.2、No.4）、コロナ感染症対策のため中止1件（No.2）

〈令和2年度事業一覧〉

No.	事業	件数 (件)	参加者数(人)	
			大人	小人
1	市内小学校体験学習	10	26	514
2	森の子コレンジャー活動	5	6	43
3	講演、研修、ツアー	7	35	16
4	市の森づくり事業	0	—	—
5	出展	0	—	
合計		22	640	

※ コロナ感染症対策のため中止13件(No.1~No.5)

〈令和3年度事業一覧〉

No.	事業	件数 (件)	参加者数(人)	
			大人	小人
1	市内小学校体験学習	11	57	667
2	森の子コレンジャー活動	6	8	55
3	講演、研修、ツアー	2	14	6
4	市の森づくり事業	1	21	4
5	出展	1	—	
合計		21	832	

※ 雨天中止2件(No.2) コロナ感染症対策のため中止6件(No.2、No.4、No.5)

2-2 森の子コレンジャー活動



森の子コレンジャー活動は、平成23年度から「自然愛や郷土愛を持った次世代を育てる」という目的で市内の小学校4、5年生の14人（令和2年度からは新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため10人）と年間を通して郷土の自然について学んでいます。本市の自然の素晴らしさを自ら体験・発見するだけではなく、現在起こっている地域の環

境問題を知り、解決のための行動だけではなく、野外での安全な行動について学んでいます。

環境教育には子どもの成長に合わせた学びの段階があり、小学校低学年時に「気づき」、中学年時に「知る」、高学年から中学校時にかけて「考える、行動する」という段階に進むことが良いとされています。しかし、自然への関心が高く、自然のために行動したいという思いを持つコレンジャーには、1年を通して3つの段階を踏みながら、自然の多様性、生命性、生産性、関係性、有限性、自然と人の関わりを体験から学ぶ構成とされています。そのため、活動では子どもたちの探究心を大切にしており、森林レンジャーが自然について教えるだけではなく、自ら感じ、調べ、考え、行動できる力を育む要素を加えています。その中で、森林レンジャーが行う自然のための活動（2-5「アニマルサンクチュアリ活動」参照）に協力してもらい、自然と向き合う森林レンジャーの姿を見せるということも大切にしています。

令和元年度まで、1年を通して段階的に自然を学び、まとめとして自然のための活動（どんぐり豊凶調査とビオトープ整備）を仲間と協力して行うという年間プログラムを実施していました。令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策によって活動の中止が続き、年間プログラムと室内学習を中止して野外活動のみの単発プログラムに変更して実施しました。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもたちが自然と触れ合い、自然が好きな仲間と共に過ごす機会まで減少してしまったため、活動目標に「参加者が市の自然に触れ合い、仲間と共に活動する体験を通して笑顔になる」ことを新たに加えました。

自然のための活動であるどんぐり豊凶調査とビオトープ整備活動は、令和2年度は感染症対策のため中止としましたが、令和3年度にはビオトープ整備のみ再開することができました（詳細は過去の活動報告書を参照）。活動中、「仲間と距離をとる」「マスクを着用する」等の制限がありましたが、参加者の様子や活動報告書を見ると、自然や仲間と関わる活動を通して笑顔になり、自然愛や郷土愛を育てていることがわかります。また、活動を中止している期間には、参加者や保護者の方が身近な郷土の自然について理解を深めるきっかけとして「コレンジャー通信」を作成して配布しました。

○ 活動の様子



鳥の渡りの調査



季節の生き物調査



登山



ビオトープ整備



鳥の目線で秋川を見る



その日の発見を野帳に記す

○ 毎年行っているピオトープ整備の場所は、所有している方からお借りしています。所有している方には毎年、ピオトープの様子を報告するとともに、次年度の後輩たちも同じように活動させていただくため感謝状をお渡ししています。



ありがとうございます！たのしかったです！ 翔太郎
 いろんな生物がみえたのがたひすほま
 カエルなどの山でしか見えないような生物
 がじゅりかんさうでまて、おもしろかったです！ 浩平
 2回しか行そいけでいりうな生
 を物かして 安木しかたです ころる
 かえるなびが見れこうれしかたなび生き物を大切にします
 いまのいのちがアキてこうれしかたです。いなる 葉実
 私はそのとき休んでしまったけど
 3/27日によろすを見にいったらカエルなどが
 いておもしろかったです。ありがとうございました
 ございました！く〜ん、〜ンヨから
 カエルのたまごがいっぱいあったのでび
 くりしました。にこ
 ありがとうございます。たのしかったです。
 七海

- 卒業後も「レンジャーや自然、仲間と関わる場がほしい」という参加者や保護者の要望を受けて、平成26年度から同窓会を開催しています。同窓会では、自然や後輩の助けとなるピオトープ整備活動を行っています。学年の違う仲間と活動ができる楽しさだけでなく、現役のコレンジャー活動の様子を知ることができて嬉しいなどの感想を聞きます。森林レンジャーとしては、自然との関わりを継続している卒業生や、自然を深く学ぶために進路を選択した卒業生の話を聞くことができ、自然を愛する次世代が着実に育ってくれていることが分かる嬉しい機会となっています。



令和元年度の参加者（10人）と整備活動の様子



令和2年度の参加者（12人）と活動の様子（コロナのため整備活動は中止）



令和3年度の参加者（11人）と整備活動の様子